

有害プランクトン調査 (漁場環境監視等強化対策事業)

加藤 慎治・萩平 将・平野 匠

赤潮の多発時期に海況・水質及び有害プランクトンの発生状況を調査することにより赤潮の発生状況を的確に把握し、赤潮による漁業被害の防止に資するため、平成12年度から赤潮発生監視調査として実施している。

方 法

図1に調査地点を示した。また、調査項目及び観測層は表1に一括して示した。

平成17年7月7日～8月29日の間、主として*Chattonella*及び*Karenia mikimotoi*を対象にその出現状況を調査した。プランクトンの計数は、対象種が1cells/ml未満の場合は口径8 μ mのフィルターで試水1,000mlを10mlまで濃縮したもの

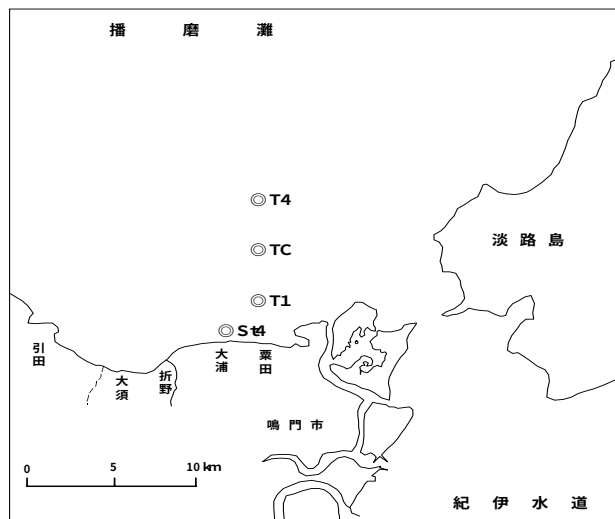


図1 調査地点

表1 調査項目及び観測層

	調 査 項 目	観 測 層
気 象	天候・雲量・風向	
海 象	水温・塩分	表層から海底まで
	透明度	
水 質	栄養塩（リン・窒素・珪酸）	T4（1,5,10,20,30m） St.4（1,5,10,20,30,B-1m）
	溶存酸素量	1,5,10,・・・以下5m間隔でB-1mまで
プランクトン	採水法・・・種組成・細胞数	1,5,10,B-1m及び0～5m層
	ネット法・・・沈殿量・優占種	0～20m層鉛直曳（T4,St.4）

を1ml用い、1cells/ml以上の場合は無処理の試水1mlを1～3回計数し、1ml当たりの細胞数に換算した。

水温と塩分の測定はクロロテック（ACL-215-DKアレック電子社製）を用い、溶存酸素量の測定にはデジタルDOメーター（モデル58YSI社製）を用いた。栄養塩類の測定は試水をGF/Cフィルターで濾過し凍結保存後、連続流れ分析装置swAAt（ビーエルテック社製）を用いて行った。

結 果

1 気象

7月はじめは雨が多かったが後半は晴れの日が多かった。月平均気温、月降水量、月間日照時間は平年並みであった。8月は概ね晴れの日が続いた。月平均気温は平年より高かったが、月降水量、月間日照時間は平年より少なかった。

2 水温（℃）

T4では調査開始時の7月初旬には底層水温が20℃を超えており、7月下旬には表底層水温差が5.6℃と最大になり8月中旬まで水温差が大きかった。

St.4でも7月初旬には底層水温が20℃に達した。台風等による海水の攪拌が起らなかったため、表底層水温差は期間を通じて大きく、最も大きかった7月下旬には水温差が6.0℃であった。

3 塩分

期間を通じて降水量が少なく各調査地点とも塩分の大きな変動はみられなかった。T4では32.1～32.3の範囲で推移した。St.4では31.8～32.3の範囲で推移した。